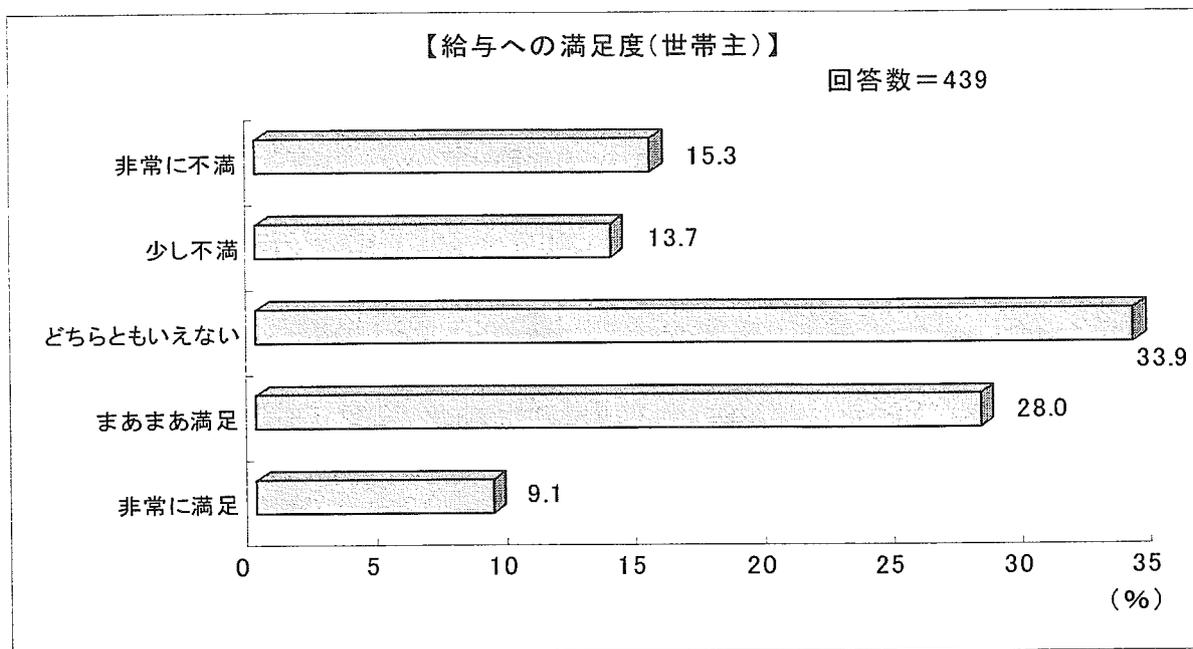
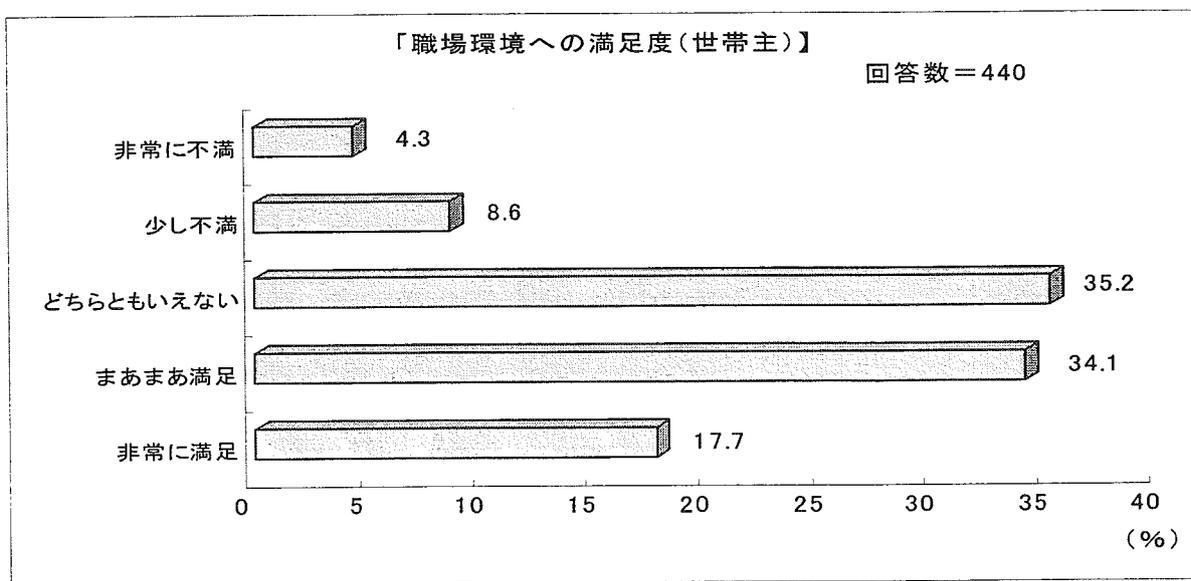


5-5. 給与（世帯主）（問 12）



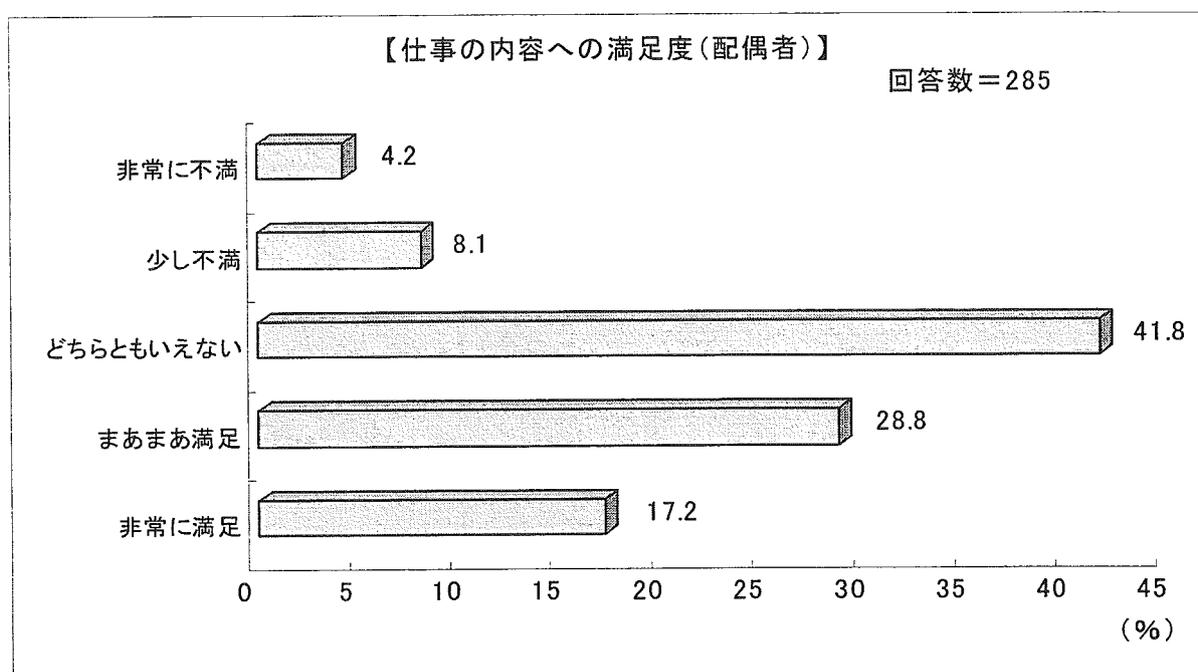
給与に関しては、他の仕事の満足度に関する事項に比べて不満を持つ者の割合が高いのが特徴である。「非常に不満」(15.3%)と「少し不満」(13.7%)を合わせて29.0%に達している。この割合は、自分への評価に対する不満を持つ者の割合を上回る。満足している者は、「まあまあ満足」(28.0%)と「非常に満足」(9.1%)を合わせて37.1%にしか達していない。

5-6. 職場環境（世帯主）（問 12）



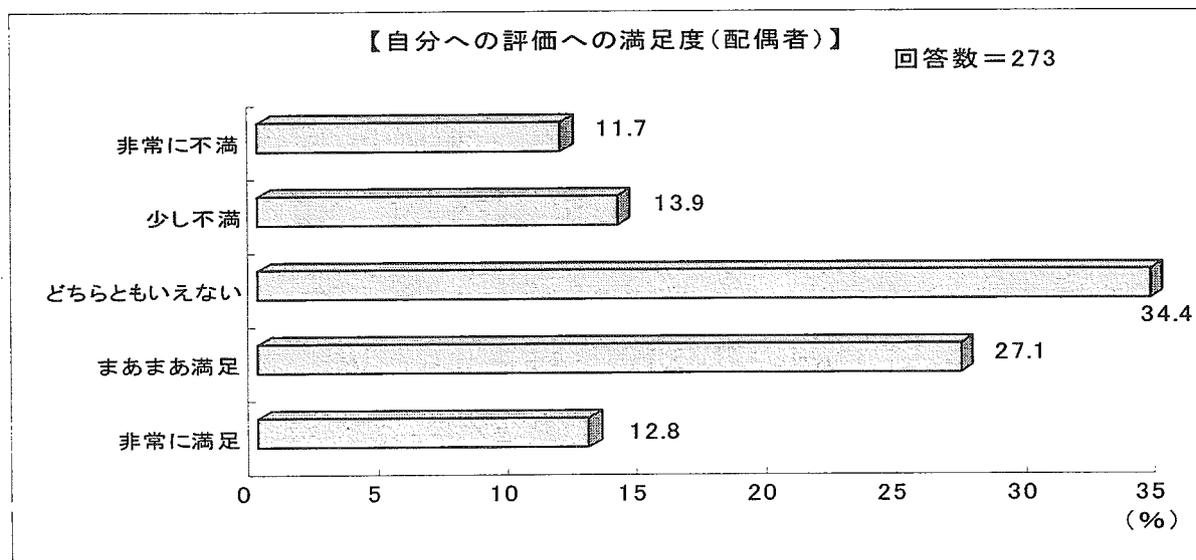
職場環境に関しては、「非常に満足」が17.7%と高く、「まあまあ満足」(34.1%)と合わせると半数を超える。不満と回答したのは、「非常に不満」(4.3%)と「少し不満」(8.6%)を合わせた12.9%であり、職場環境は比較的満足度が高いと思われる。

5-7. 仕事の内容（配偶者）（問 12）



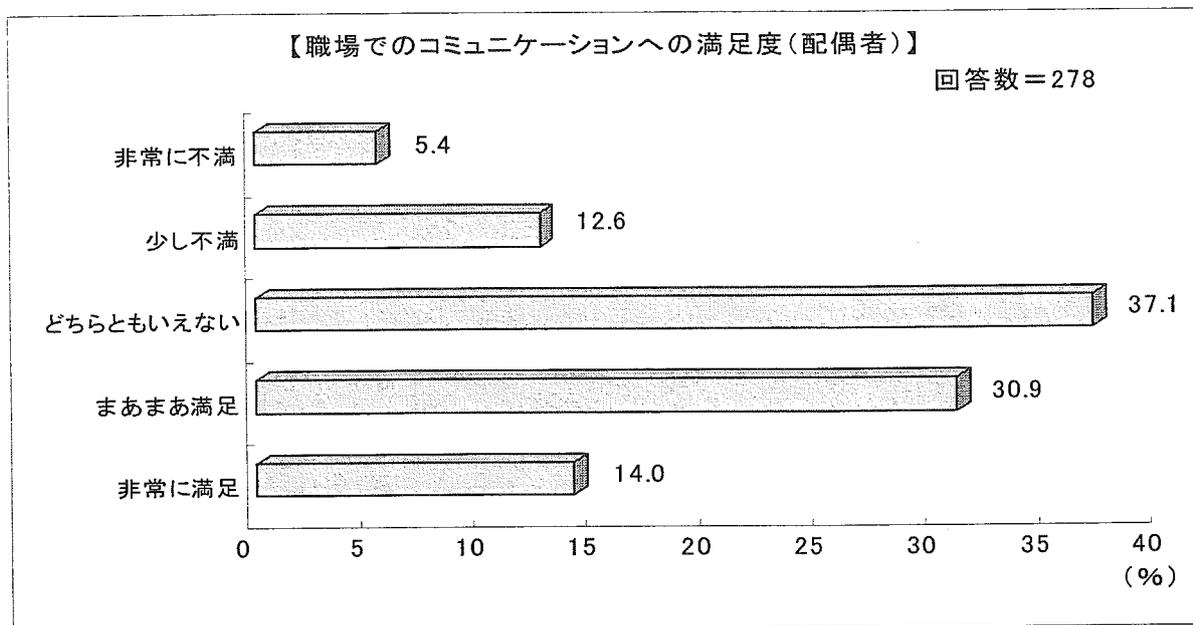
配偶者の場合も「どちらともいえない」が最も大きな割合を占め、これだけで41.8%に達している。「まあまあ満足」(28.8%)と「非常に満足」(17.2%)を合わせると46.0%になり、世帯主と比較すると満足している層が若干低い。不満を表明している配偶者は、「少し不満」の8.1%、「非常に不満」の4.2%で、合わせて12.3%である。

5-8. 自分への評価（配偶者）（問 12）



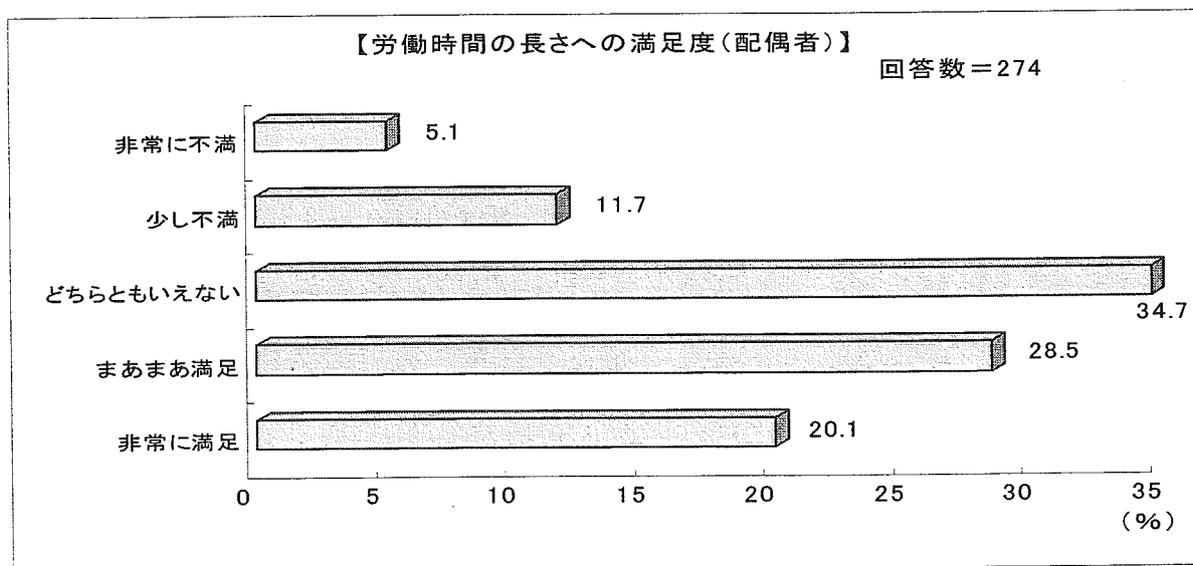
自分に対する評価への満足度は、世帯主の分布と同傾向を示している。「まあまあ満足」(27.1%)と「非常に満足」(12.8%)を合わせて約4割が自分に対する評価に満足していると回答している。一方、34.4%の者が、「どちらともいえない」と回答しており、また、「非常に不満」(11.7%)と「少し不満」(13.9%)が合わせて25.6%を占めている。

5-9. 職場でのコミュニケーション（配偶者）（問 12）



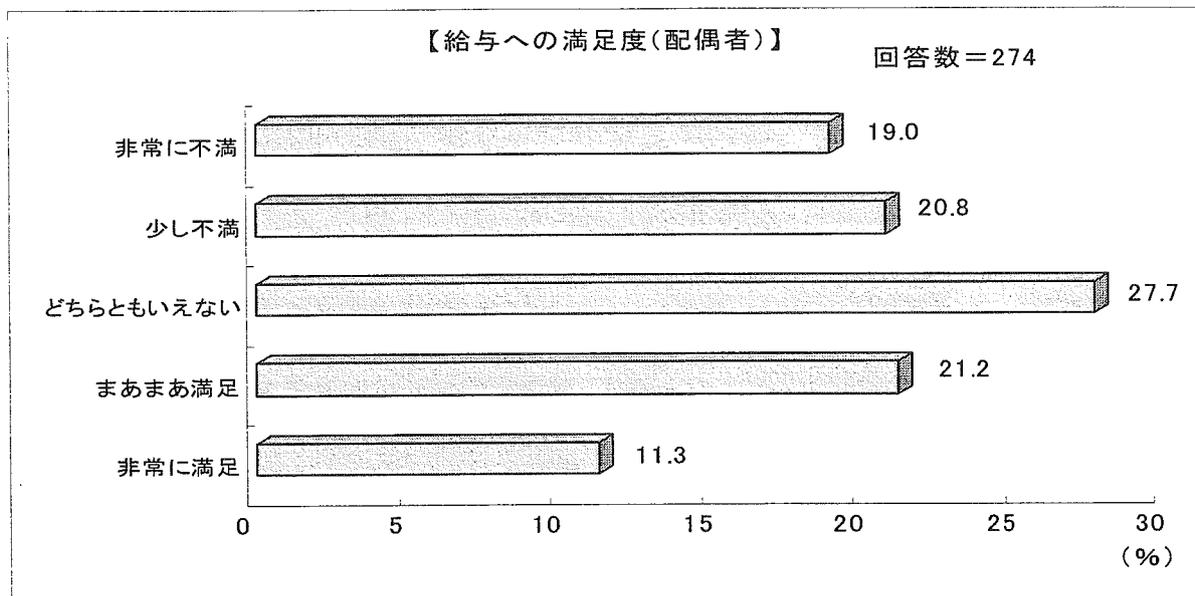
職場でのコミュニケーションは、「どちらともいえない」の37.1%を除けば、比較的満足度は高い。「まあまあ満足」(30.9%)と「非常に満足」(14.0%)を合わせて44.9%を占める。一方、「非常に不満」(5.4%)、「少し不満」(12.6%)は合わせて18.0%になる。この項目でも、配偶者の方が世帯主よりも不満を持つ者の割合が高い。

5-10. 労働時間の長さ（配偶者）（問 12）



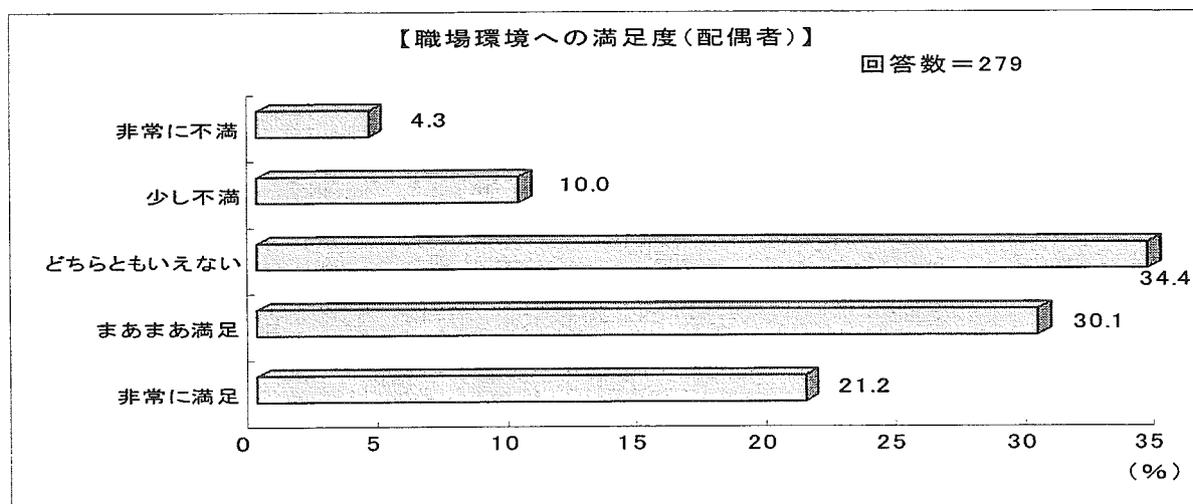
配偶者の労働時間の長さに関する満足度の分布は、他の項目同様、世帯主の分布と類似しているが、労働時間の長さに関しては、世帯主よりも「非常に不満」(5.1%)と回答する者の割合が若干低い。「まあまあ満足」(28.5%)と「非常に満足」(20.1%)を合わせて48.6%を占める。「少し不満」(11.7%)、「非常に不満」(5.1%)は合わせて16.8%であり、労働時間の長さに関しては、配偶者の満足度の方が世帯主の満足度よりも高い。

5-11. 給与（配偶者）（問 12）



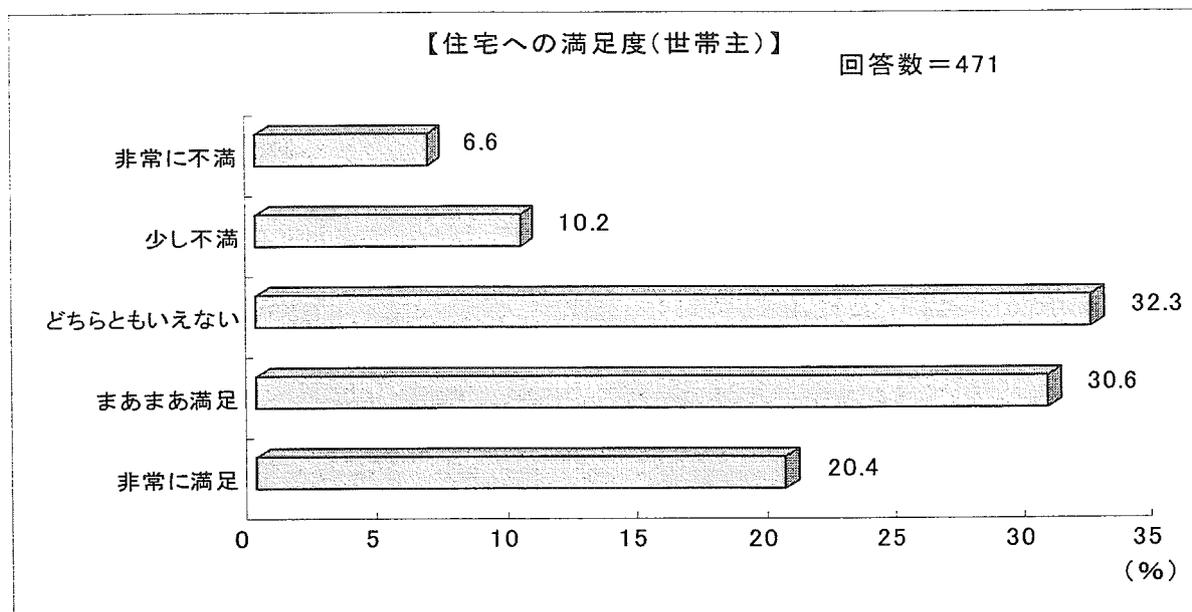
給与の満足度に関しては、配偶者の方が世帯主よりも不満度が高い。「非常に不満」が19.0%、「少し不満」が20.8%を占めており、両者を併せると約4割に達する。また、「どちらともいえない」が27.7%と他の項目や世帯主と比べても低い。満足している配偶者は、「まあまあ満足」(21.2%)と「非常に満足」(11.3%)を合わせて約3分の1を占める。給与に関する満足度の低さは、同じ仕事内容でも女性であるということ賃金が低い職場が多いからではないだろうか。

5-12. 職場環境（配偶者）（問 12）



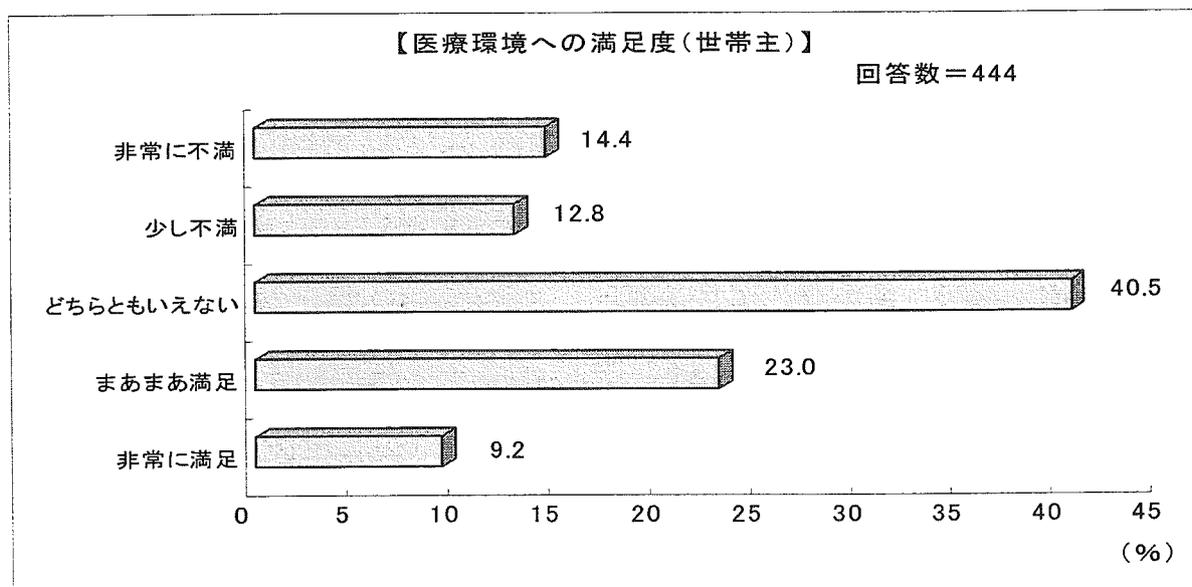
給与とは反対に、職場環境に対する満足度は比較的高い。「どちらともいえない」(34.4%)を除くと、「まあまあ満足」が30.1%、「非常に満足」が21.2%で、合わせて半数を超す。不満のある者は、「少し不満」(10.0%)と「非常に不満」(4.3%)を合わせて、約15%である。労働時間の長さを除くと、一般に配偶者の方が世帯主よりも不満を持つ者の割合が若干高い傾向がみられる。特に顕著なのは、給与であった。

5-13. 住宅（世帯主）（問 13）



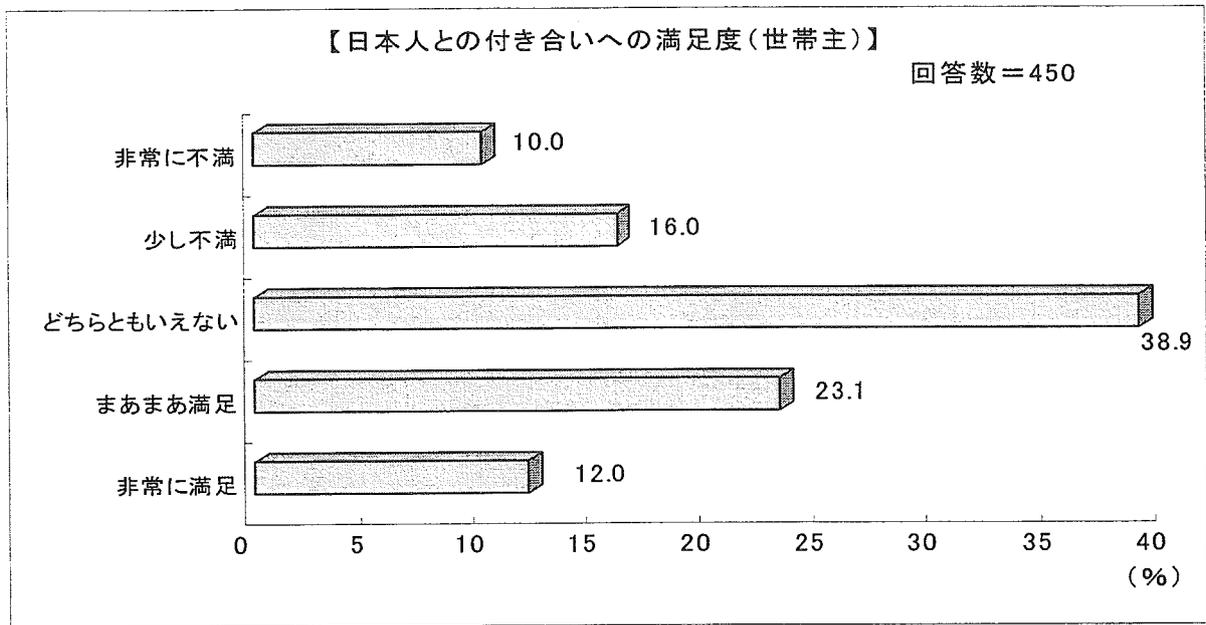
世帯主の住宅に対する満足度は、「どちらともいえない」（32.3%）を除けば、比較的高い。「まあまあ満足」（30.6%）に続いて「非常に満足」（20.4%）の順番となっており、両者を合わせれば半数を超える。その反面、不満を持つ者は「少し不満」が10.2%、「非常に不満」が6.6%で、合わせて16.8%である。

5-14. 医療環境（世帯主）（問 13）



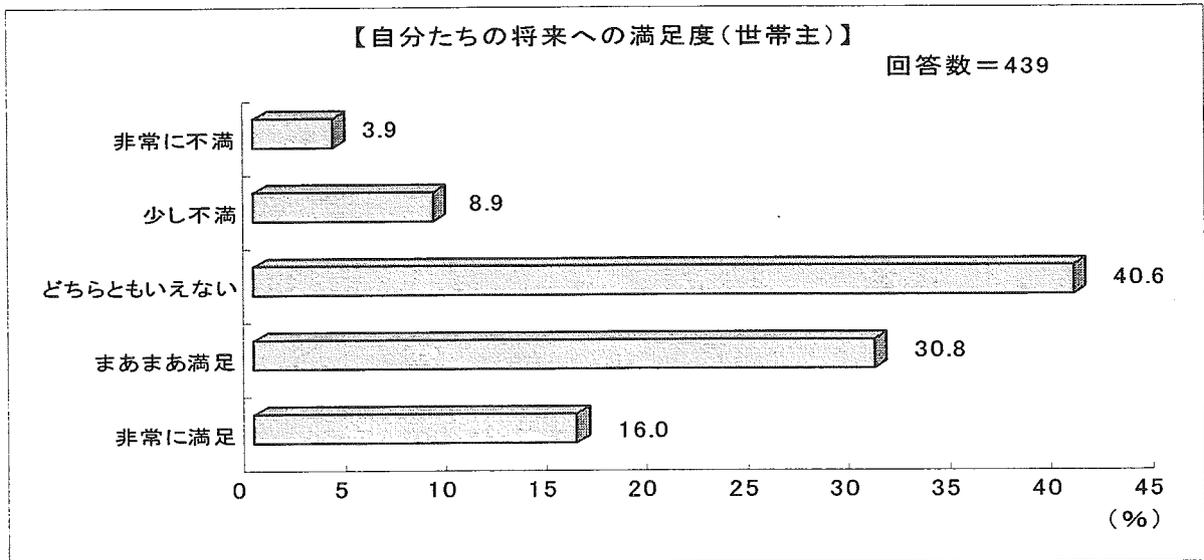
医療環境に関しては、「どちらともいえない」が40.5%と非常に高い割合を占めている。続いて「まあまあ満足」の23.0%、「非常に不満」の14.4%の順番となっている。満足を表明した者は、合わせて32.2%、不満を表明した者は、合わせて27.2%となっており、満足を示したの方が少し多い。しかし、問13の中で聞いた項目の中では、医療環境が最も満足度が低い。

5-15. 日本人との付き合い（世帯主）（問 13）



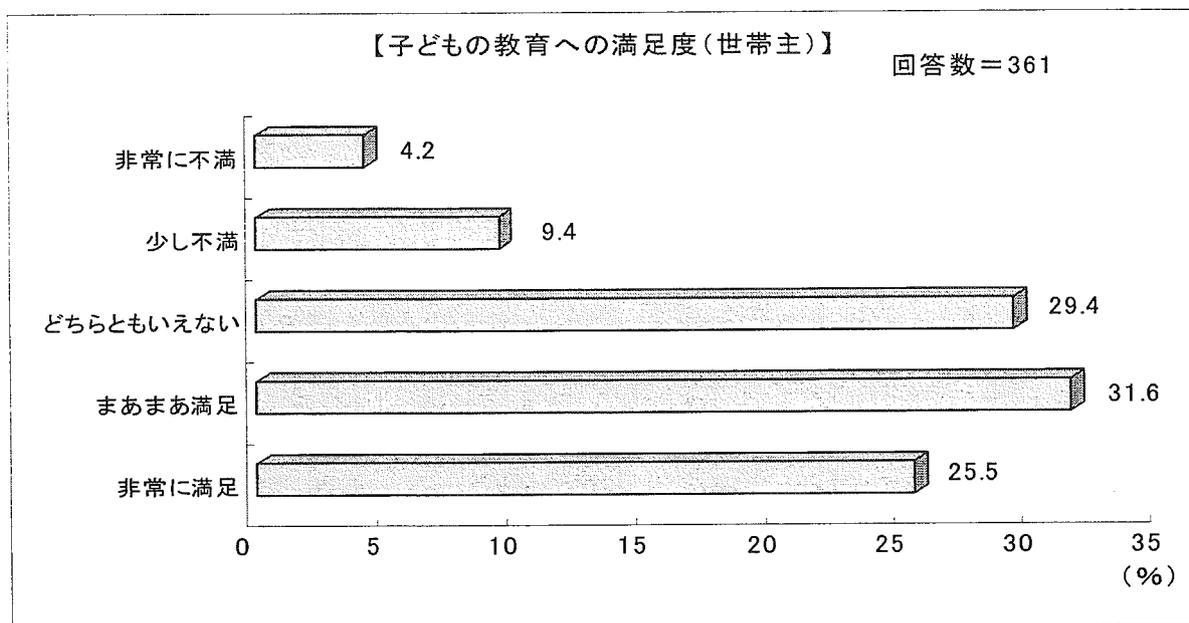
日本人との付き合いに関しては、「どちらともいえない」（38.9%）を除くと、「まあまあ満足」が 23.1%、続いて「少し不満」の 16.0%という順番になっている。「まあまあ満足」（23.1%）と「非常に満足」（12.0%）を合わせると 35.1%、「少し不満」（16.0%）と「非常に不満」（10.0%）を合わせると 26.0%となり、満足しているグループの方が、10パーセントポイントほど高い。しかし、問 13 の項目の中では、「医療環境」に次いで満足度は低い。

5-16. 自分たちの将来（世帯主）（問 13）



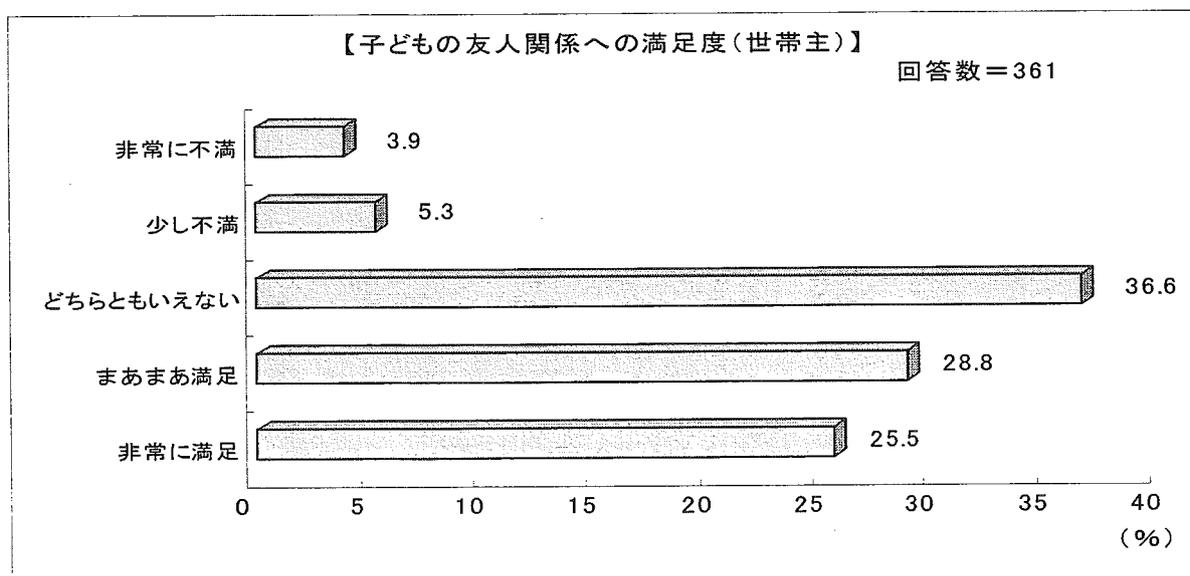
自分たちの将来に関しては、非常に明るい見通しを持つ者の割合が高い。将来のことなので、「どちらともいえない」の割合が 40.6%と特に高くなっているのもであろう。それでも「まあまあ満足」（30.8%）、「非常に満足」（16.0%）を合わせると 46.8%に達する。「少し不満」（8.9%）、「非常に不満」（3.9%）を合わせると、12.8%となる。

5-17. 子どもの教育（世帯主）（問 13）



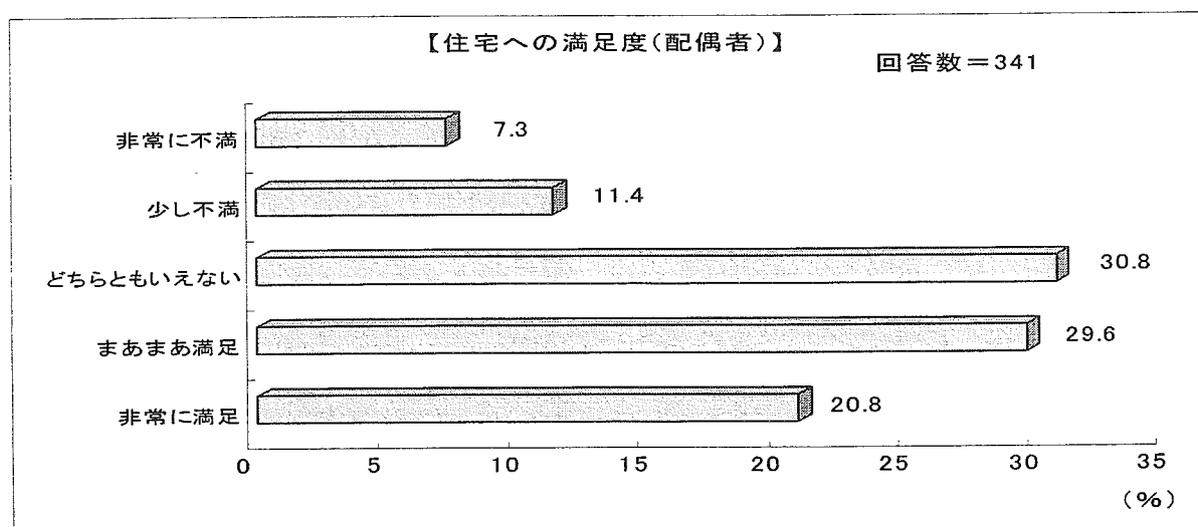
意外なことに、子どもの教育に関して満足度は非常に高い。「まあまあ満足」が 31.6%で、どの項目でもたいてい一番高い「どちらともいえない」の 29.4%を上回っている。「まあまあ満足」に続くのが「非常に満足」の 25.5%で、両者を合わせると 57.1%の世帯主が子どもの教育に満足を示している。一方、「少し不満」は 9.4%、「非常に不満」は 4.2%で、合わせて 13.6%に達する。

5-18. 子どもの友人関係（世帯主）（問 13）



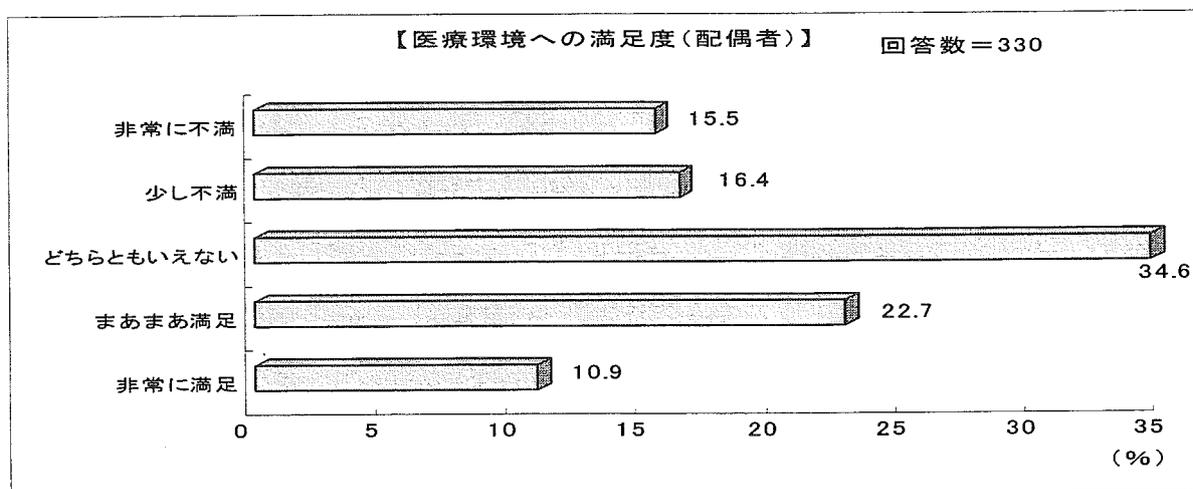
子どもの友人関係に関しても、比較的満足度は高い。「まあまあ満足」が 28.8%、「非常に満足」が 25.5%で、両者を合わせると 54.3%に達する。不満を持つ者は、「少し不満」(5.3%)と「非常に不満」(3.9%)を合わせて 9.2%である。

5-19. 住宅（配偶者）（問 13）



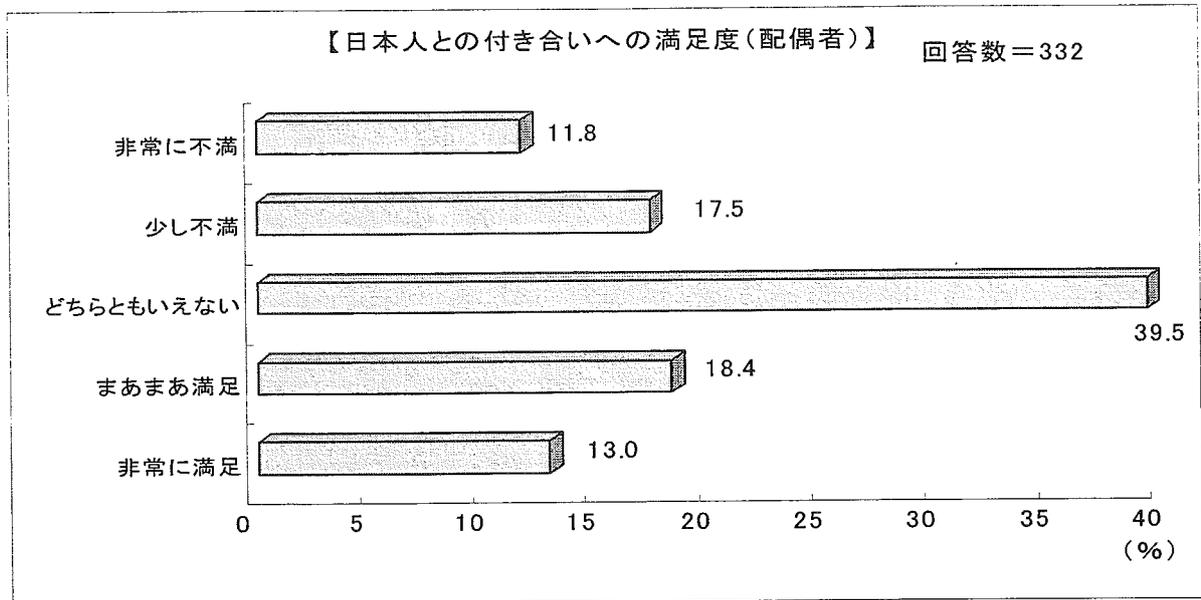
住宅については、「どちらともいえない」の30.8%を除くと、次に多いのが「まあまあ満足」の29.6%、それに続いて「非常に満足」の20.8%である。両者を合わせると住宅に対して満足と回答しているのは、約半分である。「少し不満」(11.4%)と「非常に不満」(7.3%)がそれに続き、不満を表明しているのは、18.7%となる。住宅に関する配偶者の満足度の分布は、世帯主のそれとほぼ同様の傾向を示している。ただ、配偶者の方が不満を持つ割合が若干高い。

5-20. 医療環境（配偶者）（問 13）



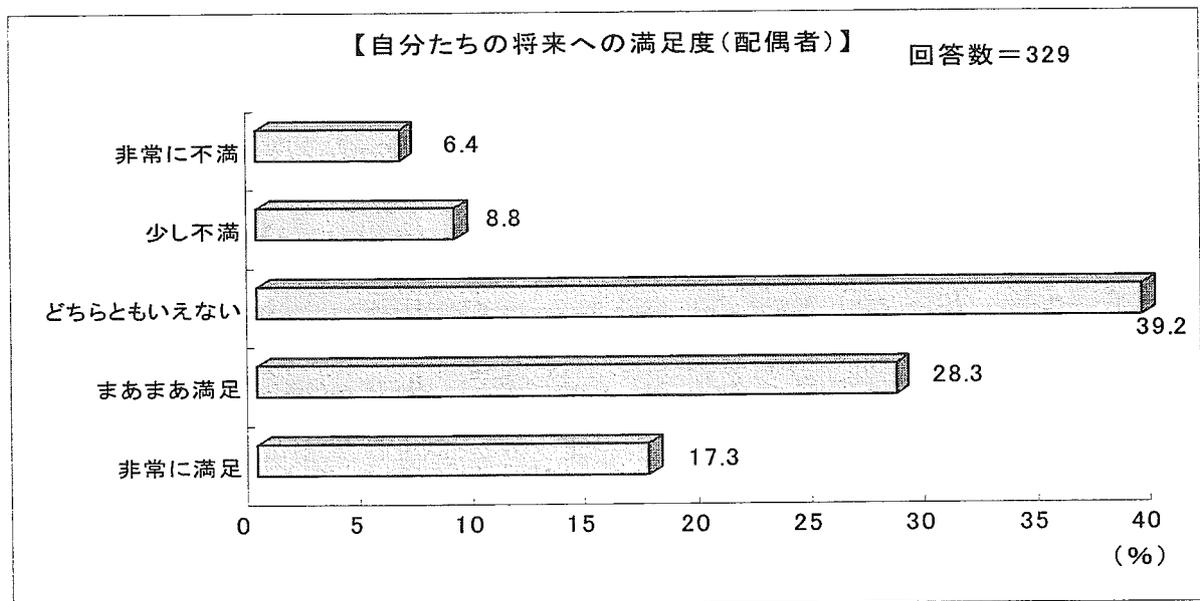
医療環境については、「どちらともいえない」が34.6%を占めているが、これは世帯主の場合と比べると6パーセント・ポイントほど低い。配偶者の方が自分の妊娠・出産や子どもの病気等で医療施設を利用したことのある者が多いためかもしれない。「まあまあ満足」(22.7%)、「非常に満足」(10.9%)を合わせて33.6%を占めるため、約3分の1が満足していると言えるだろう。「少し不満」(16.4%)、「非常に不満」(15.5%)は合わせると31.9%になり、満足派と不満足派と二極化している様子がうかがわれる。

5-21. 日本人との付き合い（配偶者）（問 13）



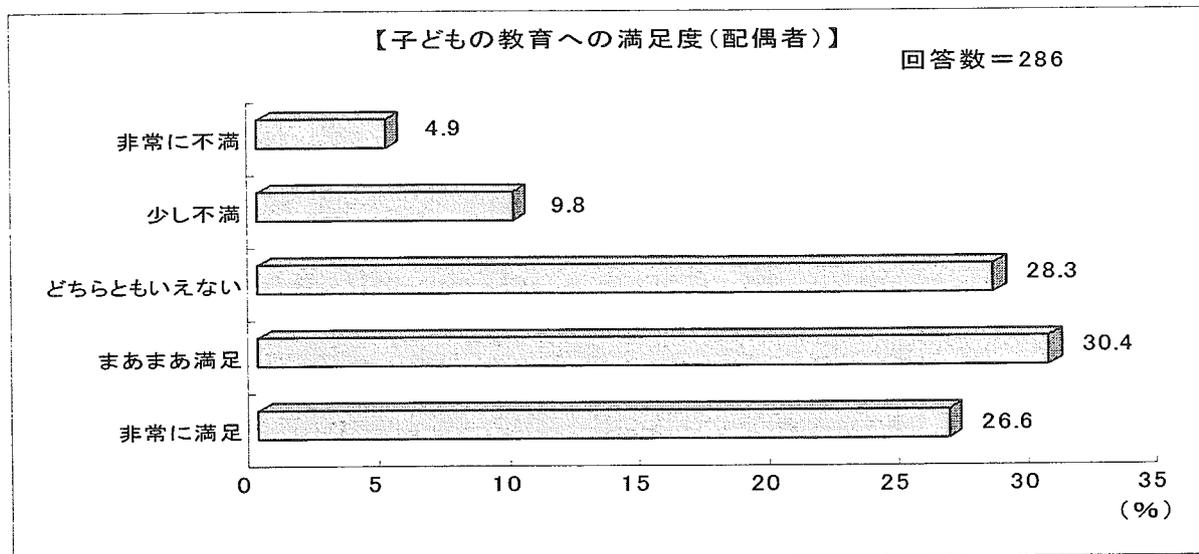
日本人との付き合いについては、「まあまあ満足」が 18.4%、「非常に不満」が 13.0%で、満足度の高いグループは全体の 31.4%を占める。「少し不満」は 17.5%、「非常に不満」は 11.8%で、合わせて 29.3%を占める。ここでも「どちらともいえない」を除くと、満足度の高いグループと低いグループは大きく二つに分かれる。そして、世帯主と比べると、配偶者の方が不満を持つ者の割合が高い。

5-22. 自分たちの将来（配偶者）（問 13）



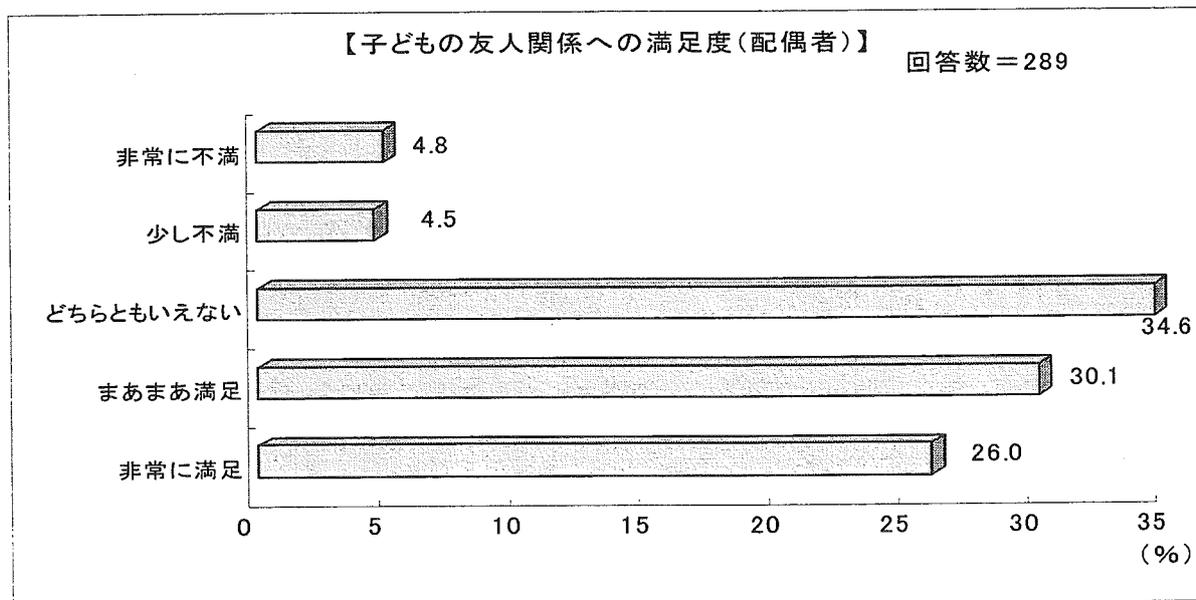
自分たちの将来に関しては、世帯主同様、おおむね楽観的である。「まあまあ満足」（28.3%）と「非常に満足」（17.3%）を合わせて 45.6%を占める。「少し不満」（8.8%）、「非常に不満」（6.4%）は、合わせると 15.2%を占める。自分たちの将来に関しても、世帯主より配偶者の方が不満を持つ割合が高い。

5-23. 子どもの教育（配偶者）（問 13）



世帯主同様、子どもの教育に関して満足度は比較的高い。「まあまあ満足」が30.4%で、「どちらともいえない」(28.3%)を上回っている。「まあまあ満足」と「非常に満足」(26.6%)を合わせて57.0%が満足だと回答している。「どちらとも言えない」が28.3%を占めるが、それを除けば子どもの教育に不満を表明しているのは、「少し不満」の9.8%と「非常に不満」の4.9%で、合わせて14.7%である。

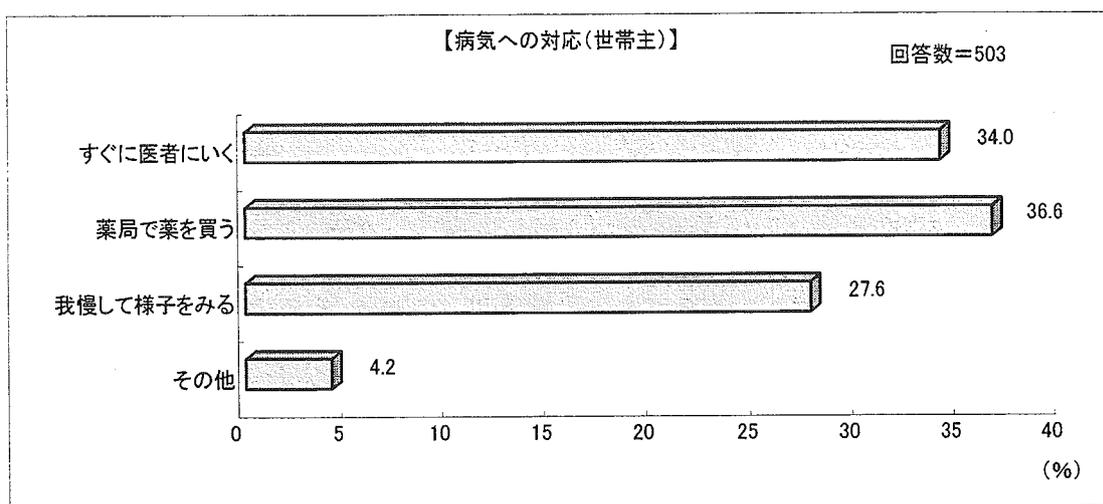
5-24. 子どもの友人関係（配偶者）（問 13）



子どもの友人関係についても満足度は高い。「まあまあ満足」(30.1%)、「非常に満足」(26.0%)を合わせて56.1%が、満足している。「どちらともいえない」が34.6%と世帯主に対する設問同様一番高いが、不満を表しているのは「非常に不満」(4.8%)、「少し不満」(4.5%)の合計9.3%である。子どもの友人関係に関しては、配偶者の方が世帯主よりも満足度が高い。

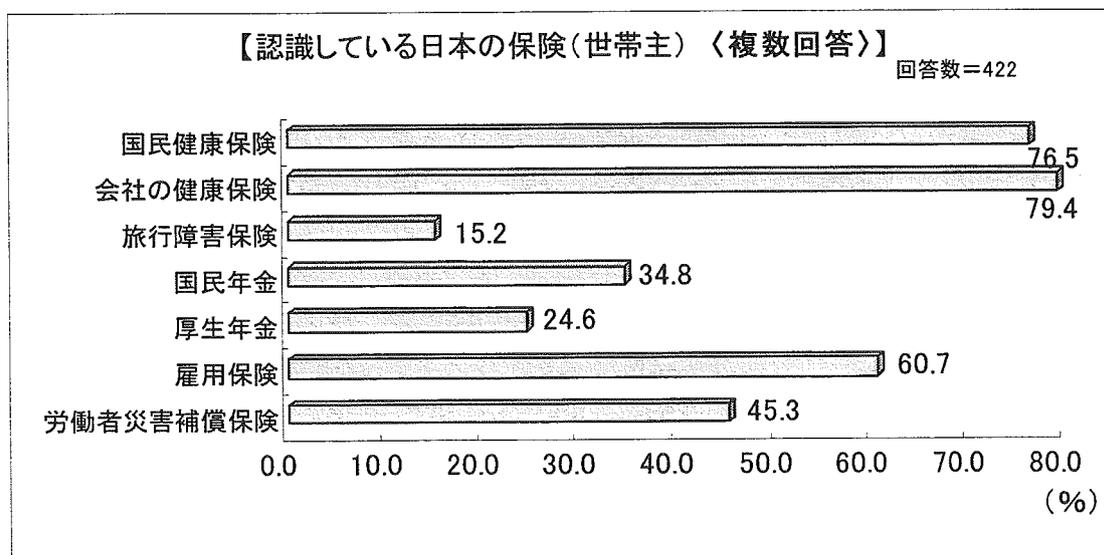
第6章 世帯主の疾病対処・健康保険・年金

6-1. 世帯主の病気への対応 (問 14)



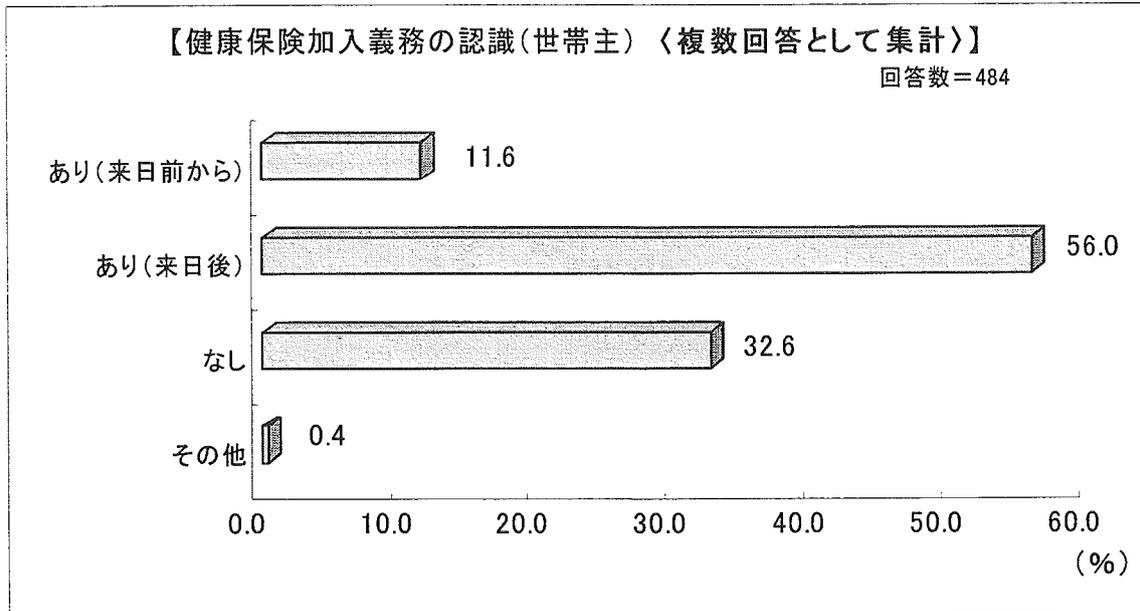
世帯主が病気をした際の対応としては、「薬局で薬を買う」(36.6%)が最多であるが、「すぐに医者に行く」(34.0%)と「我慢して様子を見る」(27.6%)が続いており、「その他」は4.2%にすぎない。2004年の磐田市調査でも同じ質問であったはずなのに、「すぐに医者に行く」が77.7%を占めていたの、ポルトガル語の調査票を比較したところ、今回調査で翻訳の際に「けが」が落ちていたことが判明した。また、前回調査では世帯主に限定されない形の質問であったことも回答の分布の違いに影響している可能性がある。

6-2. 世帯主が認識している日本の保険 (問 15)



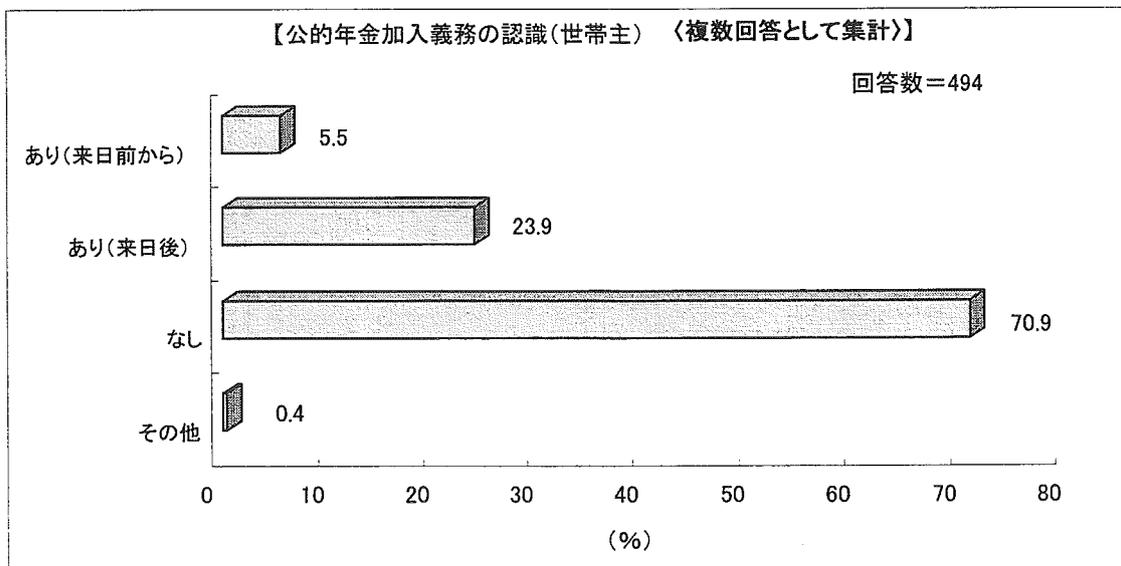
日本の保険のうち、世帯主の認知度がもっとも高いのは「会社の健康保険」(79.4%)と「国民健康保険」(76.5%)の公的医療(健康)保険である。次いで、高いのは「雇用保険」(60.7%)と「労働者災害補償保険」(45.3%)の労働関係の公的保険で、「国民年金」(34.8%)と「厚生年金」(24.6%)の公的年金は認知度が低い。民間医療保険の一種である「旅行傷害保険」(15.2%)はさらに認知度が低い、日本のものに限定しているためかもしれない。

6-3. 世帯主の健康保険加入義務の認識（問 16）



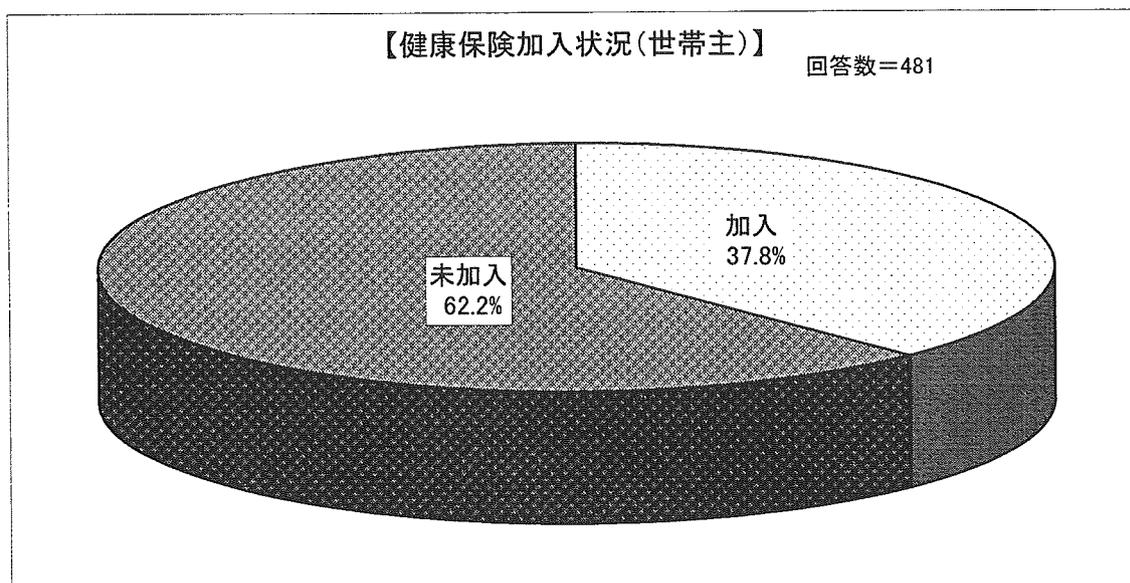
世帯主のうち、日本の公的医療保険に加入する義務があることを「来日前から」認識していた者は11.6%しかおらず、過半数（56.0%）の者は「来日後」、認識するようになっている。しかし、調査時に加入義務を認識していなかった者も約3分の1（32.6%）もいる。

6-4. 世帯主の公的年金加入義務の認識（問 17）



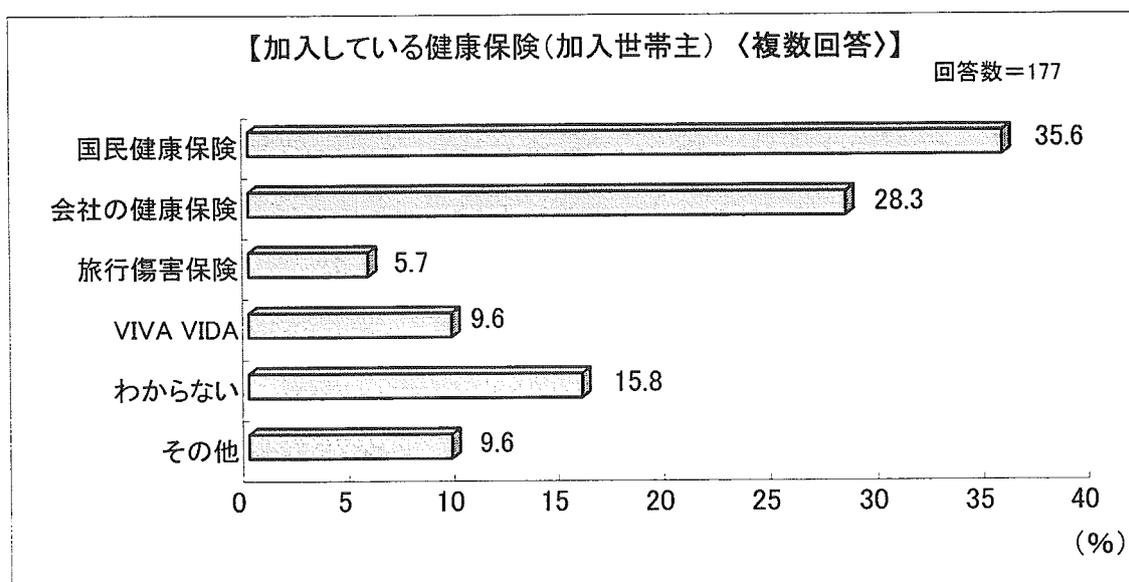
世帯主のうち、日本の公的年金保険に加入する義務があることを「来日前から」認識していた者は5.5%しかおらず、「来日後」、認識するようになった者も約4分の1（23.9%）に過ぎない。その結果、調査時に加入義務を認識していなかった者が多数（70.9%）を占めている。年金は健康保険ほど差し迫った必要がないためではないかと思われる。

6-5. 世帯主の健康保険加入状況（問 18）

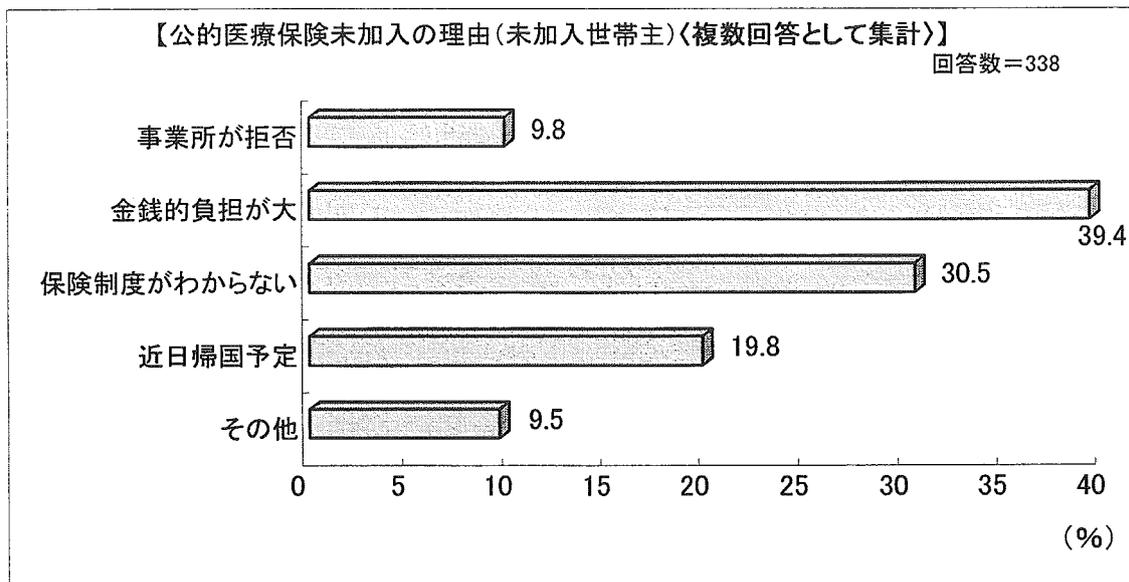


世帯主のうち、健康保険に「加入」している者は37.8%に過ぎないが、それでも2004年の磐田市調査の結果(28.3%)よりも高い。下図で加入している健康保険の内訳を見ると、「国民健康保険」に加入している者が35.6%、「会社の健康保険」に加入している者が28.3%と2004年調査の結果より水準が低いものの、2つの公的医療保険の加入者が多数を占めるが、第3位は今回新たに選択肢として加えた「わからない」(15.8%)で、第4位は新たに加えた「VIVA VIDA」(神奈川県大和市に本部がある在日外国人就労者共済会)と「その他」がそれぞれ9.6%となっており、「旅行傷害保険」(5.7%)が続く。加入率を考慮すると公的医療保険加入者が全体に占める比率は前回並なので、それ以外の保険(「わからない」を含む)への加入者が増えた結果全体として健康保険加入者の比率が高まったようである。

6-6. 世帯主が加入している健康保険（問 18）

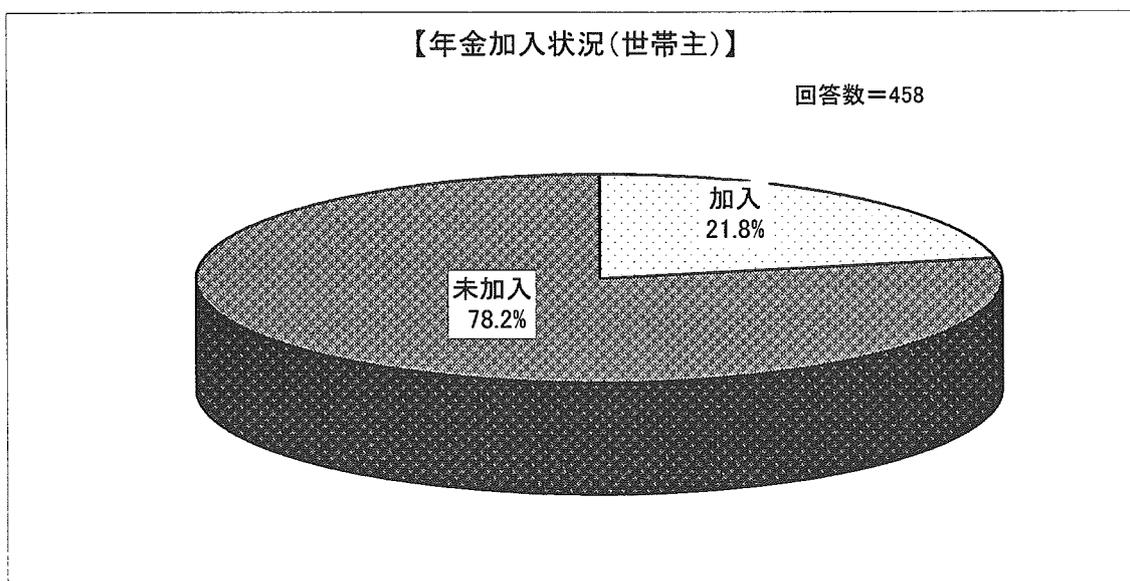


6-7. 公的医療保険に未加入世帯主の未加入理由（問 19）



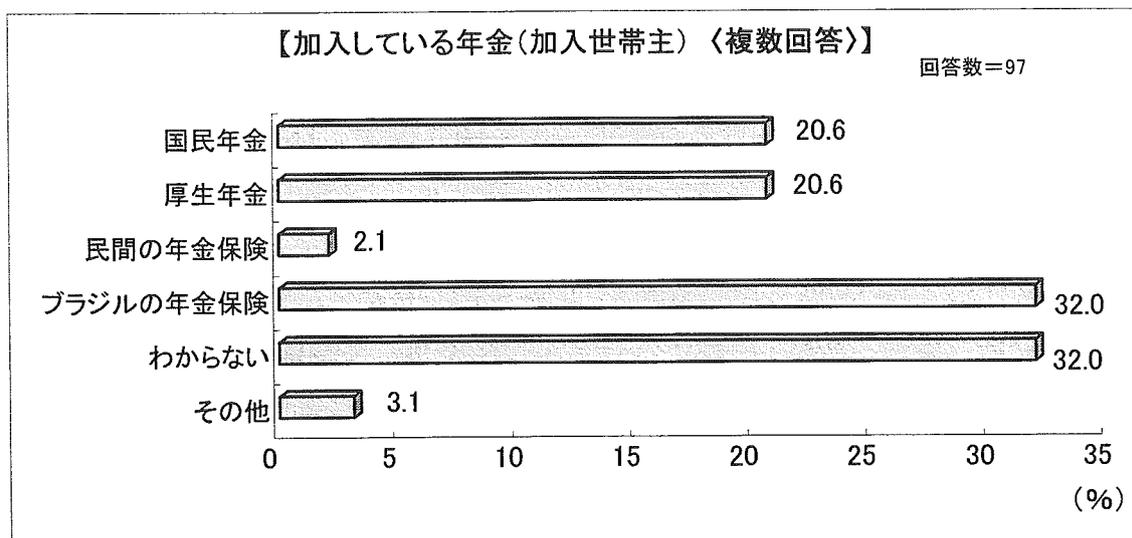
公的医療保険（国民健康保険・会社の健康保険）に未加入の世帯主が挙げた未加入理由としては、「金銭的負担が大きい」（39.4%）が最多で、「日本の保険制度がよくわからない」（30.5%）、「近日帰国予定」（19.8%）、「事業所で加入させてくれない」（9.8%）までほぼ1割ずつ低下していき、「その他」（9.5%）も最後のものとほぼ同水準である。2004年調査では2位だった「事業所」の比率が大幅に低下し、1位の「金銭的負担」の比率も低下している。

6-8. 世帯主の年金加入状況（問 20）



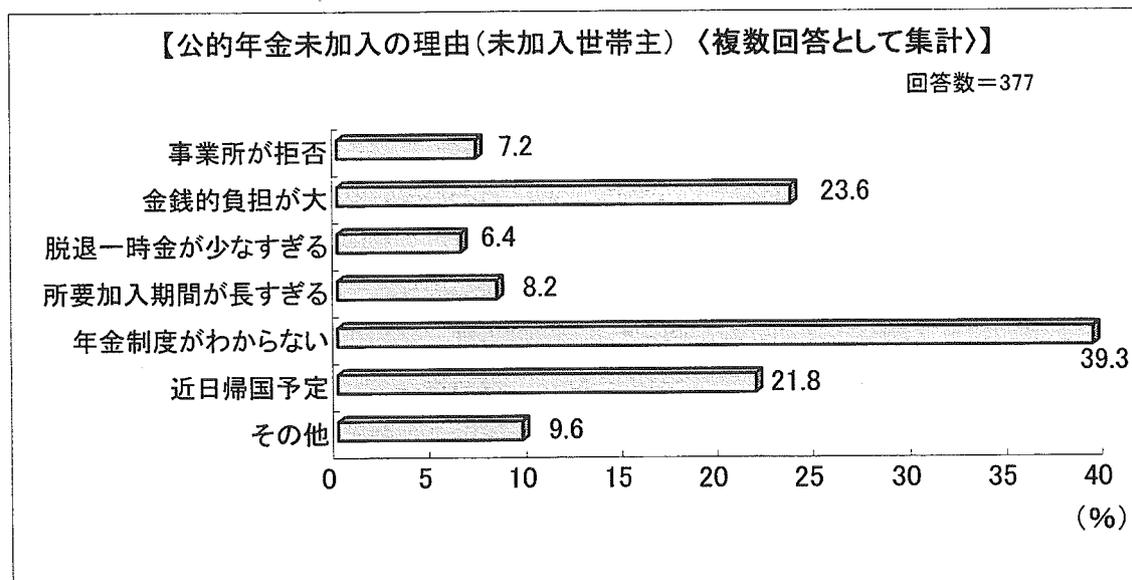
世帯主のうち、年金保険に「加入」している者の比率は健康保険（37.8%）の場合よりもさらに低く、21.8%に過ぎない。また、下図で見る通り、日本の公的年金保険（国民年金・厚生年金）に加入している者の比率はあまり高くない。

6-9. 世帯主が加入している年金（問 20）



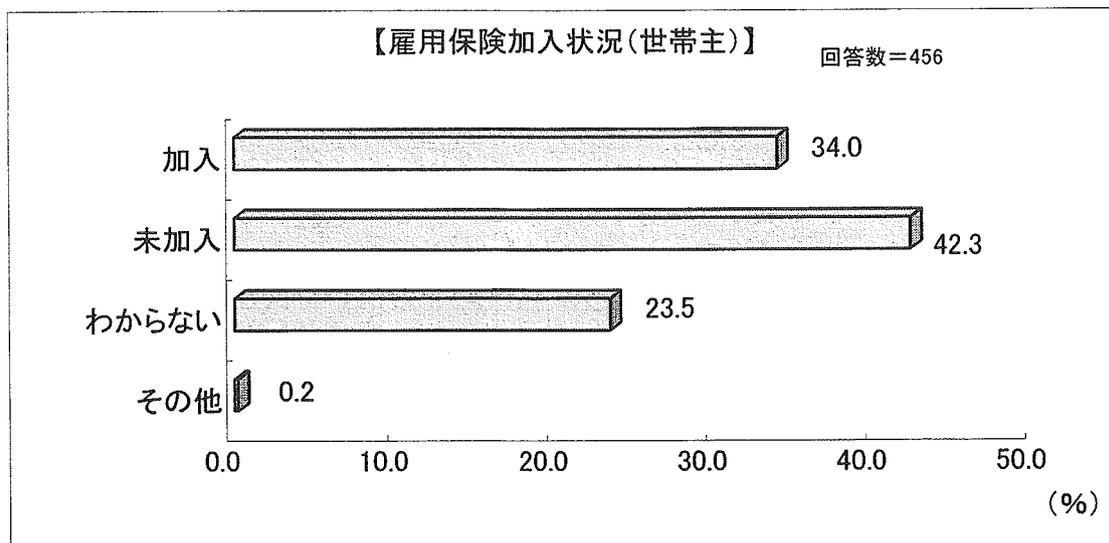
年金に加入している世帯主が加入している年金保険の内訳を見ると、「ブラジルの年金」と「わからない」がいずれも 32.0%で最多で、「国民年金」と「厚生年金」の公的年金保険がいずれも 20.6%でそれに次ぎ、「その他」(3.1%)と「民間の年金保険」(2.1%)は非常に少ない。

6-10. 公的年金に未加入の世帯主の未加入理由（問 21）



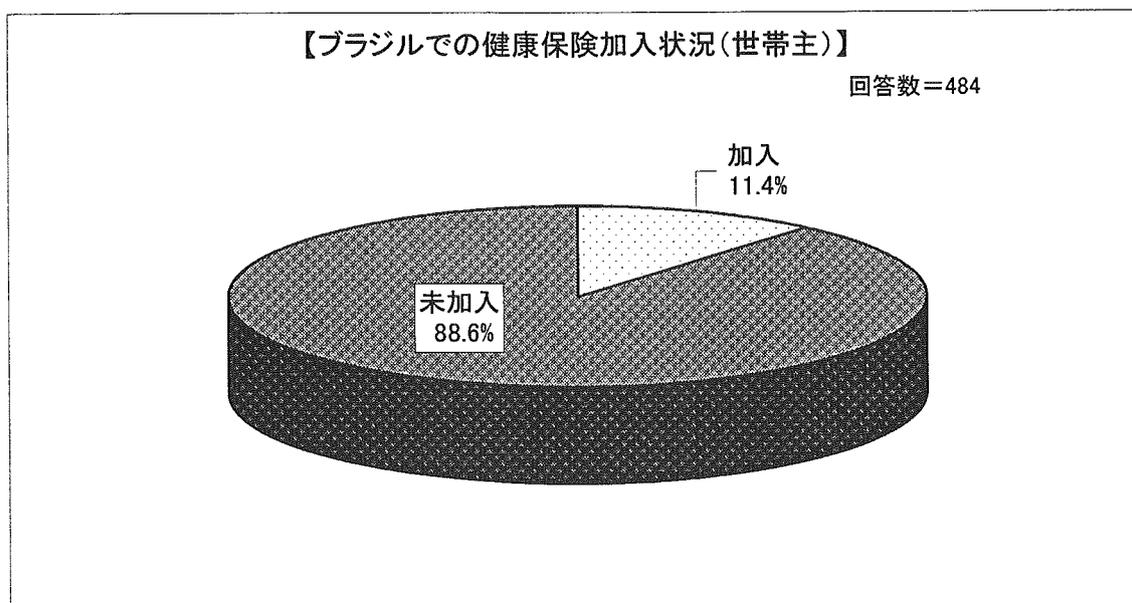
日本の公的年金保険（国民年金・厚生年金）に加入していない世帯主が挙げた未加入理由としては「日本の公的年金制度の仕組みがわからない」(39.3%)が最多で、「金銭的負担が大きい」(23.6%)と「近日帰国予定」(21.8%)がそれに次ぎ、やや離れて「その他」(9.6%)、「年金をもらえる資格が発生するまでの加入期間が長すぎる」(8.2%)、「事業所で加入させてくれない」(7.2%)、「途中で脱退した場合の一時金が少なすぎる」(6.4%)が続く。

6-11. 世帯主の雇用保険加入状況（問 22）



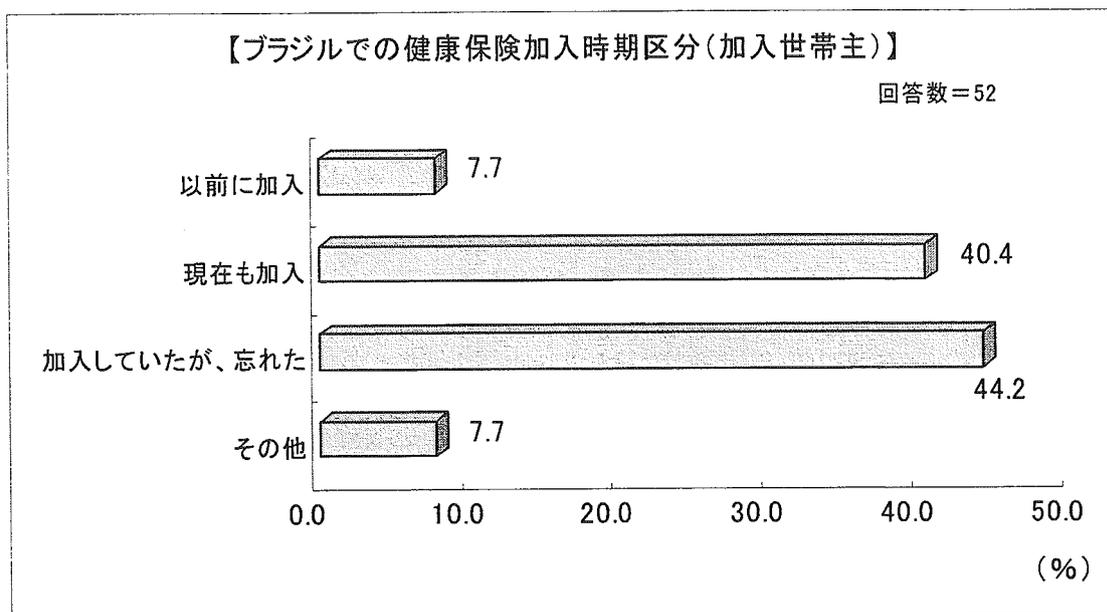
世帯主のうち、雇用保険に「加入している」者の比率は健康保険（37.8%）の場合よりも若干低いが、年金（21.8%）の場合よりも高い 34.0%で、雇用保険に「加入していない」者の比率（42.3%）より若干低い。しかし、「わからない」が 23.5%を占めているので、実際は加入している者が加入していない者を上回っている可能性がある。

6-12. 世帯主のブラジルでの健康保険加入状況（問 23）



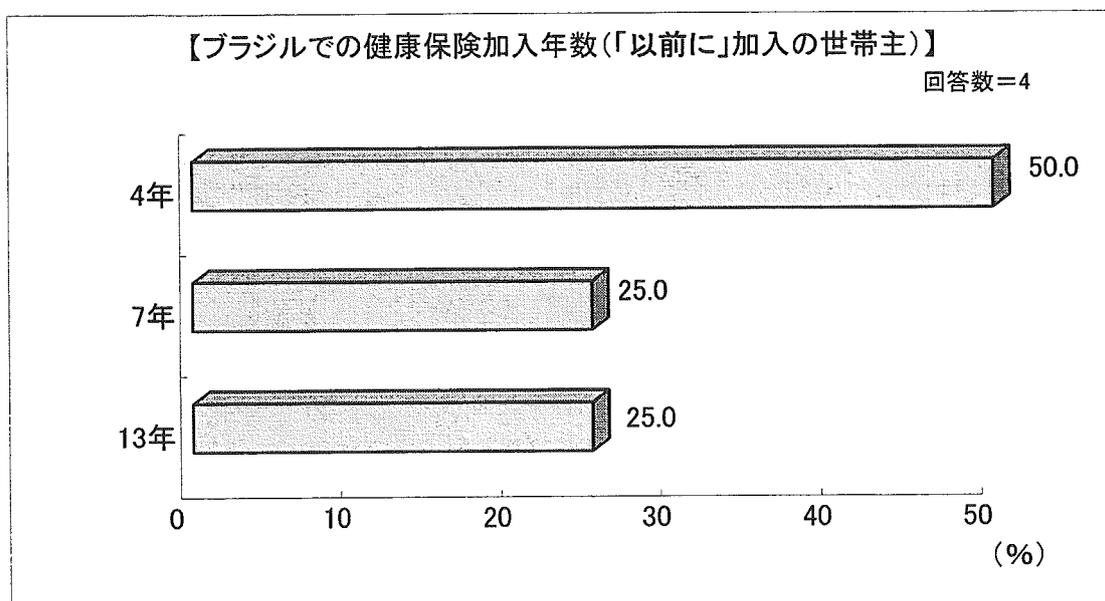
世帯主のうち、ブラジルで健康保険に「加入」していた者は 11.4%に過ぎず、日本での健康保険加入者比率（37.8%）よりも低いだけでなく、後に見るブラジルでの年金加入者比率（20.9%）よりも低い。

6-13. ブラジルで健康保険に加入していた世帯主の加入時期区分（問 23）



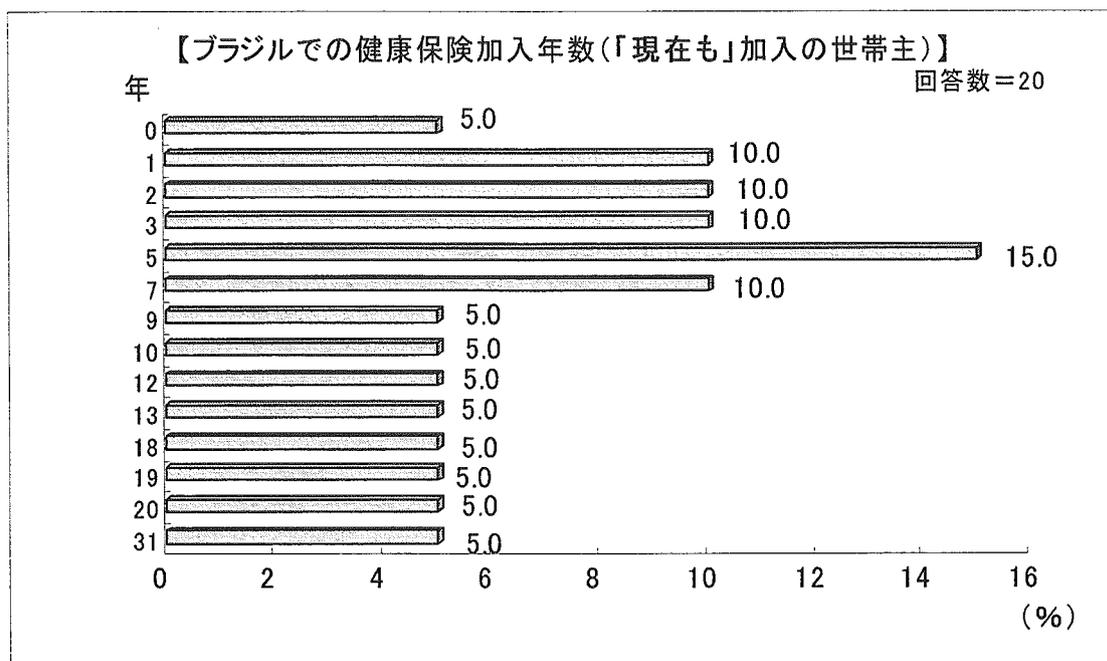
ブラジルで健康保険に加入していた世帯主は少ないので注意を要するが、加入時期区分を見ると、「加入していたが、忘れた」とする者が44.2%、「現在も加入」している者が40.4%、「以前に加入」していた者と「その他」のそれぞれが7.7%である。従って、加入経験者で加入時期を少なくとも部分的に覚えている者は全体の5%程度である。

6-14. ブラジルで以前に健康保険に加入していた世帯主の加入年数（問 23）



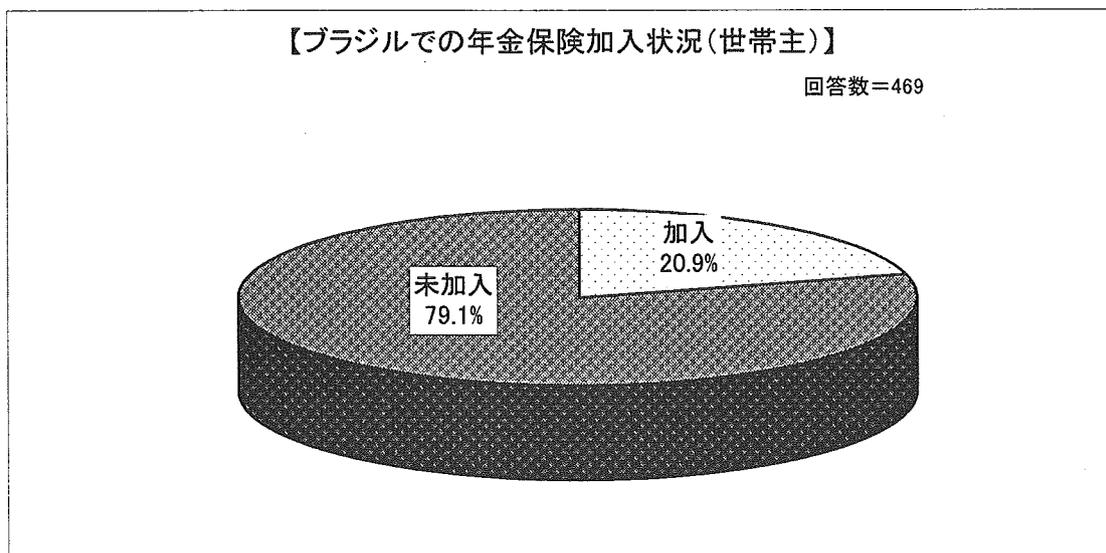
ブラジルで以前に健康保険に加入していた世帯主のうち、その加入開始年と加入終了年を正確に覚えている者はわずか4人しかおらず、そこから計算される加入期間は4年（2人）、7年（1人）と13年（1人）である。

6-15. ブラジルで現在も健康保険に加入している世帯主の加入年数（問 23）



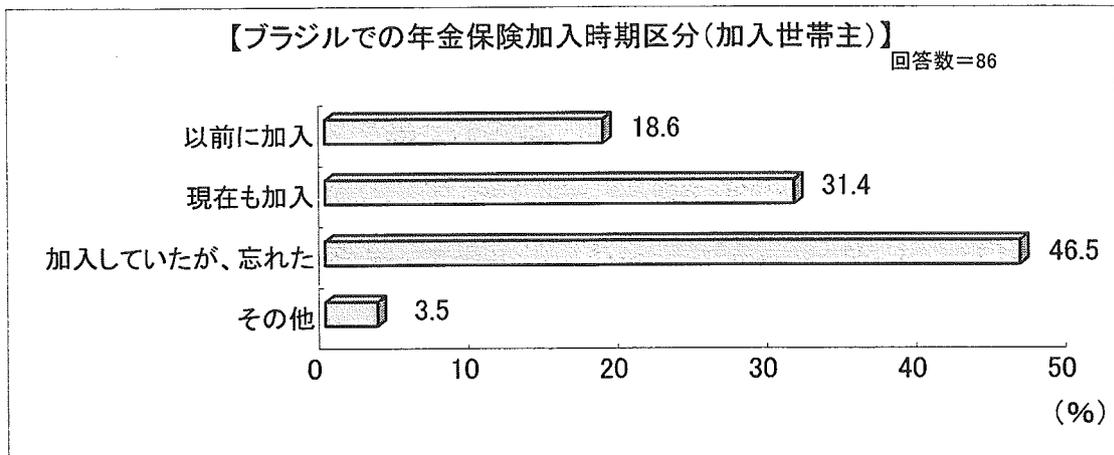
ブラジルでの健康保険に現在も加入している世帯主のうち、その加入開始年を正確に覚えている者は20人しかおらず、そこから計算される加入期間は5年（3人）が最多で、1年、2年、3年、7年がそれぞれ2人でそれに次ぎ、0年（1年未満）、9年、10年、12年、13年、18年、19年、20年、31年がそれぞれ1人で続く。

6-16. 世帯主のブラジルでの年金保険加入状況（問 24）



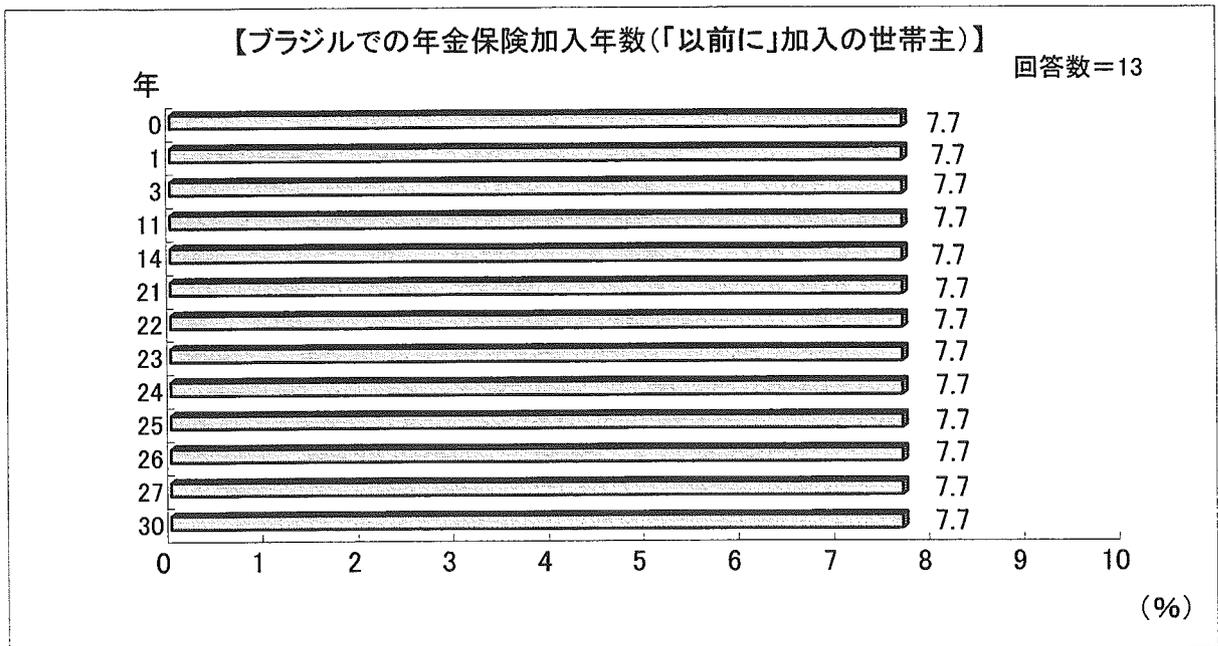
世帯主のうち、ブラジルで年金保険に「加入」していた者は20.9%に過ぎず、日本での年金保険加入者比率（21.8%）とほぼ同じ水準であるが、すでに見たブラジルでの健康保険加入経験者の比率（11.4%）よりも高い。

6-17. ブラジルで年金保険に加入していた世帯主の加入時期区分（問 24）



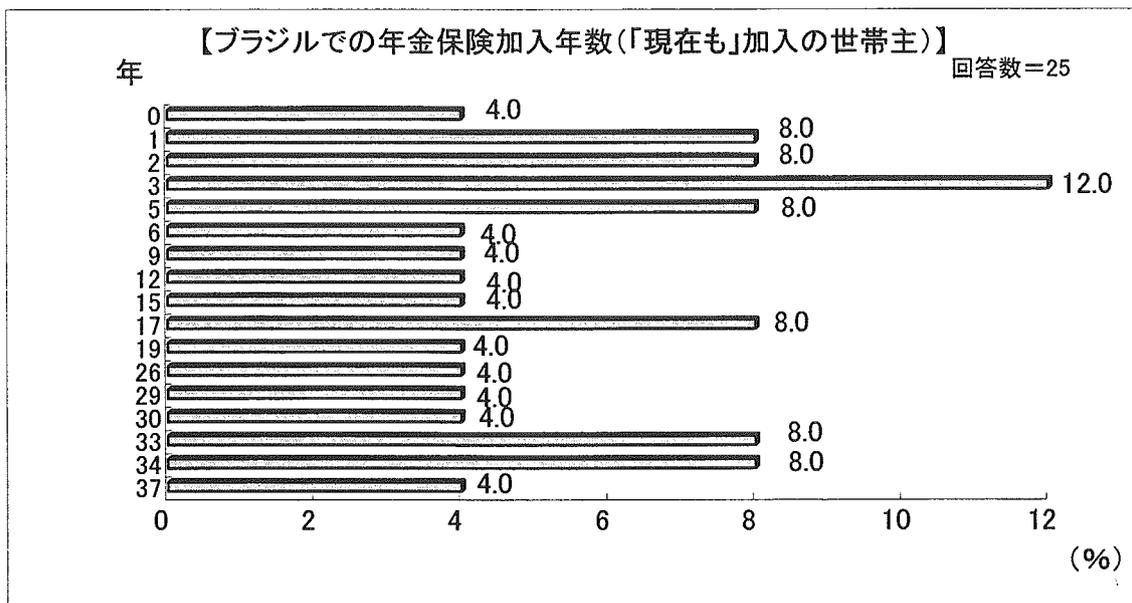
ブラジルで年金保険に加入していた世帯主はやや少ないので注意を要するが、加入時期区分を見ると、「加入していたが、忘れた」とする者が 46.5%、「現在も加入」している者が 31.4%、「以前に加入」していた者が 18.6%、「その他」が 3.5%である。従って、加入経験者で加入時期を少なくとも部分的に覚えている者は世帯主全体の 10%程度である。なお、問 24 ではブラジルの年金に現在も加入している者は 27 人であるが、問 20 では 31 人と若干異なる。

6-18. ブラジルで以前に年金保険に加入していた世帯主の加入年数（問 24）



ブラジルで以前に年金保険に加入していた世帯主のうち、その加入開始年と加入終了年を正確に覚えている者は実数としてわずか 13 人しかおらず、そこから計算される加入期間は 0 年（1 年未満）、1 年、3 年、11 年、14 年、21 年、22 年、23 年、24 年、25 年、26 年、27 年、30 年がそれぞれ 1 人である。

6-19. ブラジルで現在も年金保険に加入している世帯主の加入年数（問 24）



ブラジルでの年金保険に現在も加入している世帯主のうちでその加入開始年を正確に覚えている者は実数として25人しかおらず、そこから計算される加入期間は3年（3人）が最多で、1年、2年、5年、17年、33年、34年がそれぞれ2人でそれに次ぎ、0年（1年未満）、6年、9年、12年、15年、19年、26年、29年、30年、37年がそれぞれ1人で続く。